

# 平成 30 年度第 1 回宮城野区区民協働まちづくり事業 評価委員会 企画事業実績報告及び事後評価 議事録

日 時：平成 30 年 6 月 21 日(木) 午後 6 時～8 時  
場 所：宮城野区役所 4 階第一会議室  
出席者：吉川委員長、有坂副委員長、庄子副委員長、  
佐藤委員、高畑委員、まちづくり推進課

---

## 1 開会

## 2 挨拶 (吉川 時夫 委員長)

## 3 評価方法について (事務局より説明)

## 4 事業報告及び質疑応答

### (1) すずむしの里づくり事業 (実施主体：すずむしの里づくり実行委員会)

<質疑・意見>

- ・支出の飼育費の中の活動費というのは、具体的にどのようなものにかかっているのか？  
→市民センターに来てもらい餌やりをしてもらっているの、主に交通費に充てている。岩切地域だけではなく、鶴ヶ谷や燕沢など他地域の方に従事してもらっている。
- ・担い手を増やすには、担い手の達成感ややりがいを味わってもらえる仕掛けが必要と思う。イベントの広報だけでなく、活動の理解者・協力者を増やす広報活動にもぜひ力を入れてほしい。達成感ややりがいを見つけて、味わってもらえる「演出」を現スタッフがチャレンジしてほしい。
- ・他区の事業実施者（広瀬川・サケ／青葉区・ホテル／若林区・メダカ）との交流もあるとよいかもかもしれない。
- ・すずむしの「飼育」だけでなく、すずむしの「音」を出前で届ける活動（音を聞きながらのカフェ・お茶など）をやってみるのはいかがか。

### (2) みやぎの・まつり (実施主体：みやぎの・まつり実行委員会)

<質疑・意見>

- ・企画のマンネリ化ということを危惧されているのであれば、まつりの参加者へのアンケートからの意見を大事にして、次回の開催に反映させるというサイクルを大事にしてほしい。
- ・大阪の地震もあり防災意識が高まっていると思うが、防災の新企画はどんなものを考えているか？  
→チリ地震や宮城県沖地震を知らない世代も増えてきているので、その映像を放映することで防災意識を高める防災企画も頭の中にはある。
- ・学生ボランティアの数が増えていて、また証明書を発行する細かな配慮すばらしい。
- ・復興のバルーンリリースは宮城野区らしさでもあるので、出来る限りずっと継続してほしい。

### (3) 地域はっぴい子育て支援事業 (実施主体：みやぎの区民協議会 子育て支援部会)

<質疑・意見>

- ・講座で用いるために手帳を作成したのか？  
→ママらいふ手帳を作成して配布する中でなかなか活用されていないという現実にあたり、せっかくの手帳なので講座でつながりを作りながら活用する方法を伝えたいということで始まった。
- ・ママらいふ手帳はどの程度配布したのか？

→2000部ほど。今年度は岩切や鶴巻にも足を運ぶ予定。

・手帳は、編集・広報など分担して取り組まれているのか？

→ページにより分担している。

・家庭健康課から渡すことが多いそうだが、それ以外にも子育てサロンなど多くの場所で配布をしてほしい。まだ手帳の存在を知らない人もいる。

・昨年の事業報告でイベントの告知など広報に苦労されているという話があった記憶があるが、現在の活動で、もっと参加者を増やしたい等あるのか。

→今の講座の形式を考えると、一回の参加者は今の規模でよいと思うが、児童館や市民センター単位で独自でできるように広めることができたらと思う。

#### (4) みやぎの地域力向上支援事業（実施主体：地域メディアネットワーク検討会）

＜質疑・意見＞

・斬新な企画内容のアイデアはどうやって生まれるのか。

→これまで実施してきた酒場事業は、地域メディアネットワーク検討会委員メンバーそれぞれの嗜好や切り口によるもの。それぞれの委員が得意とする分野があり、地域に貢献する活動を行ってきた方ならではの、情報のキャッチや人とのつながりからである。

・切り口が面白い。市民の企画力を活用していく協働の仕方はとてもよいと思う。

・これらの新しい発信をどうまとめ、発信、提言していくか3年、5年、10年の当事業のロードマップを描き切ってほしい。それ自体を公開討論してみてもどうか。

・FacebookなどのSNSを活用していることも大きい。

#### (5) 宮文活性化事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

＜質疑・意見＞

・文化センターには常設のカフェ等がないので、こういった公的なスペースを試験的に活用する動きは良いと思った。勾当台公園のLIVE+RALLY PARKのようになるとなおよいと思った。

・今回の試験開催で広場活用に道が拓けたと思うか？

→今後は市民への巻き込みに力を入れたい。11月の宮城野高校美術コースの卒業制作の展示期間に併せて実施を検討しているところだが、広場活用を多くの人の目に触れてもらうことで、市民から広場を活用したいと手が挙がることをねらっている。

・29年度のイベントを通して、区民広場は活用できる場所なんだと知るきっかけになったのではないかと思う。

#### (6) ご近所ふれあいステップアップ事業（担当課：宮城野区区民生活課）

＜質疑・意見＞

・2年間の取り組みの成果がデータ化・見える化されるとなおよいと思った。住民にどう引き継ぎ、行政は今後どのようにフォローアップしていくのか具体的に示せるとよい。

→データ化・見える化はなかなか難しい部分がある。もともと「原町街づくり活性化協議会」は防犯カメラ設置を第一目的に設立されたが、防犯の分野だけでなく他の地域団体の活動にも目を向けて地域に還元できる働きが必要である。これで活動が終わってしまったら意味がないと住民本人らが思っている。住民からの相談に対してこれからも協力していきたいと思っている。

→2年間の活動で、住民自身が自分たちで街を作っていくてはならないという意識が高まった。さらに若手が地域での活動に参画する機会も増えたと感じている。

・意見交換会で出された意見、覚えていれば教えてほしい。

→地域について（防犯カメラの設置場所等）、今まで声を出せなかった・出す機会がなかった方が集まり、考える「場所」ができた。そしてその意見が形になるという体験できたことは、住民にとって大きかったと思う。

(7) 地域防災力向上事業 (担当課: 宮城野区区民生活課)

<質疑・意見>

- ・とても有意義な講演だったようだが、区内様々な地域で実施する予定はないのか。13 連合町内会単位でもいいのでぜひ実施してほしい。大学の先生以外でももちろん構わないので、日常生活と近い防災の講座を複数回開いてほしい。
- ・開催した講演の内容から、手引き書やマニュアルもしくは講演内容をうまくまとめたもの等を作成して地域に広く広報することで多くの人に知ってもらえるのではないかと。より効果的になるのではないかと。
- ・講演内容を映像として記録し、それを 13 連合町内会など各地域に送る方法もある。

→検討したい。

(8) おらほの公園草刈隊支援事業 (担当課: 宮城野区公園課)

<質疑・意見>

- ・草刈りはコミュニティをつくる手法として、地道だけどとても効果があるということをもっとアピールしてほしい。
- ・経費増をどこで補うか。企業の寄付や CSR を積極的に受け入れてみてはどうか。
- ・組織団体はどういった団体になるのか?

→建設業、公園付近に位置する工場などの企業、公園愛護協力会等。

- ・昨年に比べ、草刈機械の点検台数は増えているのに費用が縮小しているのはなぜ?

→点検の仕方・内容によって金額が変わる。また、こまめな点検をすることで長い目で見たときの修理費用の削減をしようと取り組んでいる。

5 閉会